

八月例会

日時 平成二十八年八月二十四日(水)

テーマ 21世紀の消費・無謀、絶望、そして希望

講師 立教大学社会学部現代文化学科教授

間々田孝夫氏



間々田孝夫氏

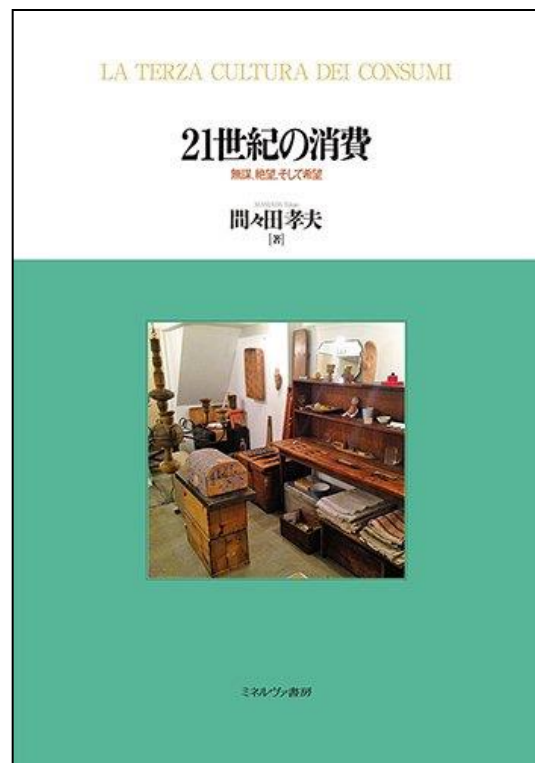
■ 略 歴

1974年東京大学文学部社会学科卒業。1979年に東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。金沢大学文学部を経て、現職。

専攻は消費社会論、経済社会学、社会行動論、社会階層論。

20世紀には、大量消費と機械化を追求する「第一の消費」、自己顕示や商品の差異を求める「第二の消費」が注目されたが、20世紀末からは文化を通じた幸福と社会的配慮による安定を目指す「第三の消費」が台頭し、また消費を抑える「ゼロの消費」も復活した。

本講演では、この状況を確認しつつ、21世紀にふさわしい新しい消費のとらえ方を提案する。



21世紀の消費:無謀、絶望、そして希望,
ミネルヴァ書房 (2016/3/5)

九月例会

日時 平成二十八年九月十四日(水)

テーマ イノベーション・マネジメント

・プロセス・組織の構造化から考える

講師 東京大学生産技術研究所教授

野城智也氏



野城智也氏

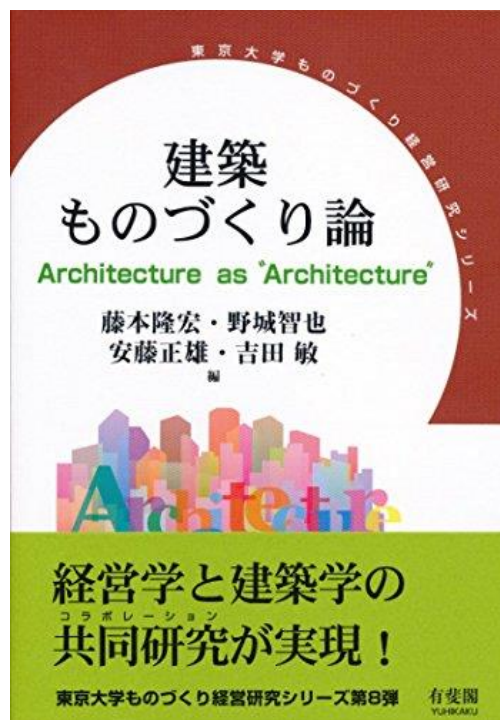
■ 略歴

1980年東京大学工学部建築学科卒業。1985年東京大学大学院工学系研究科建築学専門課程博士課程修了(工学博士)。建設省建築研究所研究員、武蔵工業大学建築学科助教授、東京大学大学院

工学系研究科社会基盤工学専攻助教授、東京大学生産技術研究所助教授を経て、2001年より現職。2009-2012年東京大学生産技術研究所所長、2013-2016年東京大学副学長を歴任。



イノベーション・マネジメント: プロセス・組織の構造化から考える, 東京大学出版会 (2016/5/31)



建築ものづくり論 -- Architecture as "Architecture", 有斐閣 (2015/7/9)



ペッカ・ナイタマキ氏

■ 略 歴

1973年ユヴァスキュラ大学修士、1978年ユヴァスキュラ大学博士(数学)。1988年よりユヴァスキュラ大学教授。1993-2000年同副学長、2000-2009年同アゴラセンター長、2010年より、同情報学部長。フィンランド イノベーション諮問委員、欧州社会数理学会会長等を歴任

2016. 10. 18

十月例会

日 時 平成二十八年十月十八日(火)

テーマ フィンランドのプラットフォームエコシステム

講師 フィンランド ユヴァスキュラ大学 情報技術学部長

ペッカ・ナイタマキ氏



The World's First Next-Generation Bioproduct Mill

十一月例会

日時 平成二十八年十一月十日(木)

テーマ 世界的なデジタル化経済下における

日本のものづくり企業の課題

講師 経済産業省 製造産業局 参事官

徳増伸二氏

(デジタル化・産業システム担当)

徳増伸二氏

■ 略 歴

1994年経済産業省入省後、大学連携推進課、研究開発課、NEDO出向、産技国際室長、産総研室長など、主に産業技術関連の部署を数多く経験。

2016年7月に製造産業局参事官(デジタル化、産業システム担当)((併)ものづくり政策審議室長)に着任。

早大理工卒・同大学院修士、ハーバード大院行政修士、MIT院経営修士、東工大大学院社会理工博士、博士(学術)。

＜概 要＞

IoT / ビッグデータ / AI 等による第四次産業革命が叫ばれる中、ドイツでは産学官によるIndustri 4.0 の取組、米国では民間主導の Industrial Internet Consortium (IIC) による取組が積極的に推進されている。

そうした経済のデジタル化が世界的レベルで進み、各国企業が対応を進める中、我が国ものづくり企業の現状及び課題について討議。



十二月例会

日時 平成二十八年十二月十四日(水)

テーマ イノベーション・ドライバーズ

IoT時代をリードする競争力構築の方法

講師 SBFコンサルティング代表取締役

氏家 豊 氏

氏家 豊 氏



■ 略 歴

大学卒業後、資本市場・投資銀行業務に従事。事業企画、産業・企業分析、IT系企業の株式公開・M&A等関連。1999年シリコンバレーに移り、SBF, Inc. を設立。国際混成チームで、日米にて日本企業向けのIT系技術製品・事業開発サポート業務を展開して現在に至る。

データが介在する機器システム、その社会課題的な分野への国際的な展開領域が中心。日本経済新聞社ネット版ライター、東北大学大学院工学研究科(技術社会システム専攻)非常勤講師、大阪府等の海外ビジネス顧問ほかを歴任。82年東北大学経済学部卒。



イノベーション・ドライバーズ: IoT時代をリードする競争力構築の方法, 白桃書房 (2016/6/20)

加速度を増すIoTのうねりは、積み上げたハードウェアとIT、サービスの融合トレンドの顕在化でもある。そんな時代をけん引する企業の競争力戦略、その方法論を提示。以下の3つの切り口。

- ①コンセプト・ビジョンの創発、発信
- ②データIT力による顧客価値追及
- ③企業自身のエコシステム形成

産業制御、自動車、医療他の広義IoTトレンドにあつて、企業がどんな形で技術・製品・事業を企画発信し、IT・データ処理を駆使し、オープンに事業展開するか。それは大学他の技術シーズ側の出口戦略ともつながる。